

3. 状況の変化に応じた計画の見直し

計画の見直しの概要

● 震災復興基本計画に基づく堤防沿いの土地利用、各地区の特徴等を踏まえプロムナード計画のルート・拠点に期待される役割を整理し、当初計画の骨格は継承しつつ、以下のようにプロムナード計画(拠点及びルート)の一部見直しを行った。

- ・拠点B : 震災復興基本計画に基づく祈念公園構想を基に旧計画の拠点A(臨港緑地)と拠点E(マリナー)を集約
- ・拠点D : 中瀬に加え、住吉公園や雄島付近も一体となった歴史・文化的拠点として改めて位置付け
- ・ルート③ : 震災復興基本計画に基づく居住と産業の土地利用を踏まえ、人の集いと憩いの拠点機能を合わせ持つルートとして役割の変更
- ・ルート⑥ : 新たな堤防整備に合わせて新規ルート設定

・当初計画



・見直し計画



雲雀野海岸(日和大橋を含む)

- ① ルート「雲雀野海岸・日和大橋」
- A 拠点「石巻臨港緑地」

旧北上川右岸下流(河口～門脇～住吉)

- ② ルート「旧北上川右岸下流」
- B 拠点「文化センターと離島航路待合所」
- C 拠点「旧丸光ビル周辺」
- D 拠点「中瀬・内海橋」

旧北上川左岸(川口～湊～八幡)

- ③ ルート「旧北上川左岸」
- E 拠点「ヤマニシ造船所跡地」

旧北上川右岸上流(水明～大橋～運河交流館)

- ④ ルート「旧北上川右岸上流」
- F 拠点「大橋地区」

北北上運河(石井閘門～釜閘門)

- ⑤ ルート「北北上運河」
- G 拠点「運河交流館」
- H 拠点「水と緑と子供たちの広場」

雲雀野海岸(日和大橋を含む)

- ① ルート「雲雀野海岸・日和大橋」
- B 拠点「祈念公園と水上交通拠点」

旧北上川右岸下流(河口～門脇～住吉)、旧北上川左岸下流(川口～湊～八幡)

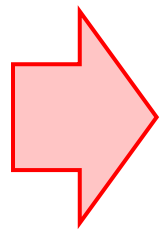
- ② ルート「旧北上川右岸下流」
- B 拠点「祈念公園と水上交通拠点」
- C 拠点「観光と賑わい(中央街区周辺)」
- D 拠点「石巻の歴史と文化の伝承(中瀬・住吉公園)」
- ③ ルート「旧北上川左岸下流」

旧北上川上流(水明～運河交流館・石巻専修大学)

- ④ ルート「旧北上川右岸上流」
- ⑥ ルート「旧北上川左岸上流」 → **新設**
- F 拠点「大橋地区」

北北上運河(石井閘門～釜閘門)

- ⑤ ルート「北北上運河」
- G 拠点「運河交流館」
- H 拠点「水と緑と子供たちの広場」



見直し

【見直し計画の前提】
 ■ 計画目標は震災復興基本計画に基づく関係事業の目標と同一とする。
 ■ 整備等の方向性を定めたものであり、具体的な計画やスケジュールは関係事業と調整を図る。

4. プロムナードルート及び拠点

いしのまき水辺の緑のプロムナード見直し計画案
 ルート及び拠点(6ルート6拠点)

凡 例

 プロムナードルート
 拠点

① ~ ⑥
B ~ H



新規ルート

雲雀野海岸(日和大橋を含む)

- ① ルート「雲雀野海岸・日和大橋」
- ② 拠点「祈念公園と水上交通拠点」

旧北上川右岸下流(河口～門脇～住吉)
 旧北上川左岸下流(川口～湊～八幡)

- ② ルート「旧北上川右岸下流」
- ③ 拠点「観光と賑わい(中央街区周辺)」
- ④ 拠点「石巻の歴史と文化の伝承(中瀬・住吉公園)」
- ⑤ 拠点「石巻の歴史と文化の伝承(中瀬・住吉公園)」

③ ルート「旧北上川左岸下流」

旧北上川上流(水明～運河交流館・石巻専修大学)

- ④ ルート「旧北上川右岸上流」
- ⑥ ルート「旧北上川左岸上流」 → 新設
- ⑦ 拠点「大橋地区」

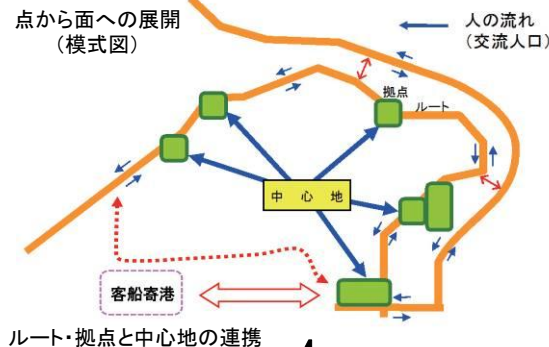
北北上運河(石井閘門～釜閘門)

- ⑤ ルート「北北上運河」
- ⑧ 拠点「運河交流館」
- ⑨ 拠点「水と緑と子供たちの広場」

※拠点Bは、旧計画の拠点A、B、Eを集約
 ※石巻港における客船寄港推進との連携と、市街地を環て囲むネットワーク導線を追加考慮

水辺の緑のプロムナードによる 中心市街地活性化の推進 (点から面への交流人口の広がり)

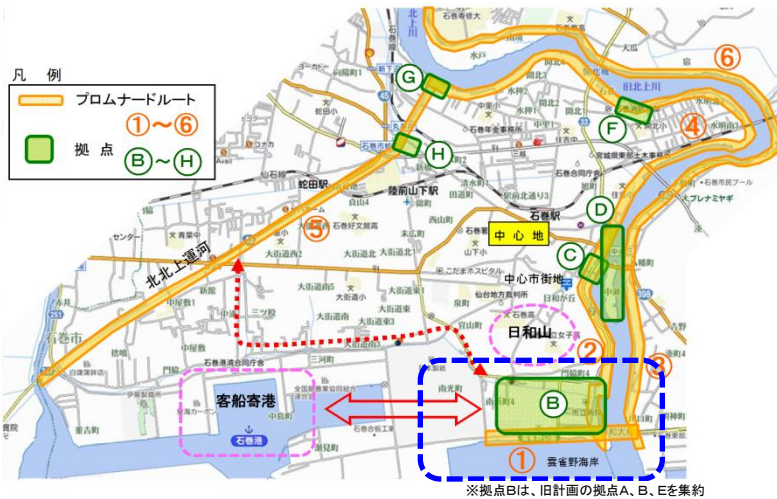
- 駅や市役所などの中心地から、中瀬などの「拠点」へと人の流れをつくり、さらに「拠点」からルートを通して次の「拠点」や、ルートの往復により、中心地の点を面的な広がりへと展開。
- 展開にあたっては、拠点の魅力を高めるとともに、ルート歩いてみたくするようなイベントなどの企画が大切(例えば歴史探訪ツアーなど)
- 拠点には、機能として「トイレ」「休憩施設」「駐車場」「バス停(近傍)」を備える必要性(ルート・拠点ごとに特徴あり)。
- 中心地から拠点への移動については、みんなが利用でき、環境にやさしい自転車での移動や回遊も検討



5. 雲雀野海岸のルート、拠点、ポイント

5-1 雲雀野海岸のポイント

雲雀野海岸の位置



- 雲雀野海岸は、石巻湾が望める素晴らしいロケーションであり、展望台からは往来する船や遠くの島々が眺められる。特に日和大橋からは、雄大な石巻湾と市街地・旧北上川が眺望。
- 波の音そして潮風が心地よい。
- 臨港道路は交通量が多い。海岸では震災後も釣りをする人の姿を見かける。
- 津波によって甚大な被害を受けたことから、新たな海岸防潮堤が整備される。
- 雲雀野海岸の沿川には、石巻の歴史そして危険と隣合わせだった千石船の船乗りたちの思いを今に伝えている「濡れ仏」や巽(たつみ)神社や恩賜燈があったが、津波により損傷・消失しており、これらの歴史を伝えていく必要がある。

雲雀野海岸

震災前の雲雀野海岸



海岸の史蹟等(津波により流出・損傷)

濡れ仏(損傷)



▲石巻絵図の濡れ仏
河口港石巻港の水難防止のため作られた燈台で、現在地より川側にあったが移設されたものという

注)碑にみえる北上川改修事務所 今泉政勝氏は、明治44年～昭和9年にわたれた北上川改修工事を担当した北上川改修事務所(昭和9年7月31日廃止)の工事であり、昭和9年度は同事務所石巻工場(石巻市門脇町海岸通)勤務であった
石巻工場は昭和6年～9年に施工された旧北上川河口導流堤を担当していた



震災後の雲雀野海岸と臨港道路



被災した雲雀野海岸の展望台



臨港道路

交通量が多い



日和大橋



日和大橋は市街地や海を一望できるすばらしい景観が楽しめる

ルート
1
ルートテーマ

海に思いを馳せる
「太平洋を眺める潮風のルート」

ルート方向性

- 海岸防潮堤に沿って、太平洋を望み、潮風を感じることでできるルート
- 祈念公園と連携しながら、海岸防潮堤に沿って、太平洋の眺望を重視した視点を設定する。
- 客船寄港時の来訪者や、祈念公園への来訪者も利用する散策の場として考慮。
- 背後の祈念公園と一体となった散策等の利用を可能とする。

水辺の現況

- 雲雀野防潮堤は、震災を踏まえて新たな海岸防潮堤として整備予定。
- 防潮堤沿いは被災し、散策路が無いため、海岸に沿っての散策は厳しい状況。
- 展望台も被災したが、防潮堤からは天気の良い日に往來する船や遠くの島々が遠望できる。



利活用方策

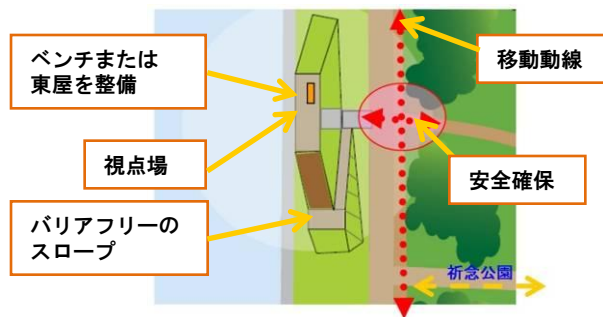
- 石巻湾からの心地よい風が吹き、海岸に打ち寄せる波の音を聞きながら、往來する船や遠くの島々を眺められ、景色を眺めながらくつろげる場所として利用する(⇒ベンチなど休憩施設を設置)
- 利用を推進する観点から、本ルートと祈念公園を利用したウォーキング講習会やレクリエーションなどを企画実施する。



海辺を眺められるベンチのイメージ

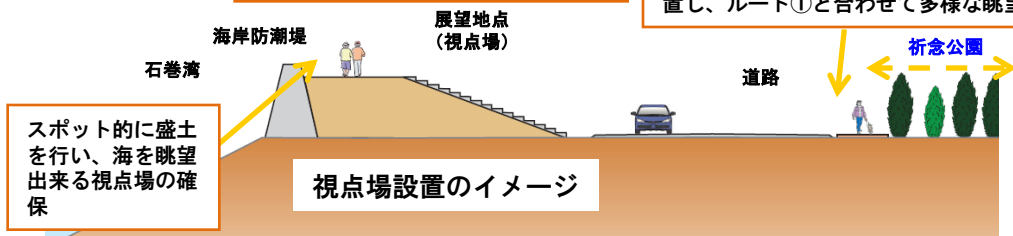
ルートイメージ

- 海岸防潮堤防に沿って、海を眺める視点を設ける。
- プロムナードとしてのルートは公園敷地内とも連携させ、海辺を眺める視点は祈念公園とも分担して多様な眺望を創出する。
- 安全を確保しつつ、ルート①と祈念公園の往來もできる設定を考慮



石巻港の客船寄港と連携したルート

公園内にも海を眺める視点場(盛土等)を設置し、ルート①と合わせて多様な眺望を確保



※堤防等はイメージであり今後の検討により変更があり得ます。

- サイクリングロードとしても利用可能なようにする。
- 臨港道路の横断は、安全性が確保できるように検討する。
- ルートの維持管理や利活用を推進するため、市民団体による清掃活動やイベント企画・実施などを推進する。
- 石巻港の客船寄港やイベントと祈念公園を連携し、訪れる乗客に、この地で起きた震災と石巻の復興の歩みを知ってもらう。



海辺のウォーキングイメージ



清掃活動イメージ



客船寄港イメージ



港湾感謝祭イメージ

向
け
現
に

- 県で整備する海岸防潮堤や復興基本計画に基づく祈念公園と調整し、海を眺望できる視点場の確保を検討。
- 背後の道路や祈念公園整備等と合わせ、ルートの周遊性・連続性・安全性を確保する。
- 利用者・管理者等の中で施設や空間の利用ルールや管理区分等を調整していく。

拠点
B
拠点テーマ

「鎮魂」「祈り」「震災アーカイブ」「復興支援に対する感謝」及び「離島航路との結節点」「マリナー機能」「客船寄港との連携」等
「鎮魂と祈りと絆の杜／水上交通拠点」

以下の2つの機能が隣接した一大拠点とする。

拠点方向性

- 公園：震災の記憶を伝承する鎮魂・祈りの公園ができることから、鎮魂・祈り・震災アーカイブ・復興支援に対する感謝をテーマとした空間となる。
- 水上交通・水面利用：離島航路との結節点、船舶を係留するマリナー機能、客船寄港との連携等、水上交通や水面利用の拠点と位置づけ、船のある風景も残る空間となる。

拠点の現況

- 文化センターや市立病院周辺は津波により大きく被災しており、祈念公園として整備予定の区域に入っている。
- 内港地区は、震災後も引き続き離島発着所として利用されている。



被災した文化センターと石巻市立病院



再スタートした離島発着所

拠点イメージ

- 祈念公園
 - 震災の記憶を伝承する、鎮魂・祈りの場となる。
 - 鎮魂と慰霊のモニュメントや催事の広場、伝承の施設等が考えられる。
 - 地域の絆を深める場所として機能するように、イベント広場や、子供も楽しめる施設も必要。
 - 潮風に強い樹種の植樹帯などの工夫をする。

- 水上交通、水面利用
 - 離島航路発着所の復旧と合わせて水辺の拠点整備で機能拡大も可能
 - プレジャーボート等を収容するマリナー機能を確保する。
 - 停泊する船舶や日和大橋や河口などを眺めるビューポイントとしても楽しめる場所とする。



広場とモニュメントのイメージ

(北海道奥尻町 徳洋記念緑地公園)



祈念公園

水上交通
水面利用



レクリエーション広場でのイベント等



マリナーイメージ



離島への定期航路の発着所

※堤防等はイメージであり今後の検討により変更があり得ます。

※拠点Bは、旧計画の拠点A、B、Eを集約

利活用方策

■祈念公園

- 3.11の記憶を後世に伝え、震災により亡くなった方の慰霊祭等の開催。
- 鎮魂と祈りの空間として常に開放された空間や施設の立地
- 親子や、地域の絆を強くすることを目的に、オープンスペースを活用した各種イベントの開催ができる。
- 築山や高台があれば、海や川、周辺の眺望も得られるポイント、避難にも活用できるスペースの確保も可能。



イベントイメージ

■水上交通、水面利用

- 離島航路発着所は、離島への玄関口であるとともに、島から戻ってきた観光客が思い出の品を買い求める場所としても活用できる。また、拠点内に石巻の名産品からお土産、絵葉書などを扱う観光センター的な機能も想定できる。
- 従来よりプレジャーボート等の不法係留船が川沿いに見られており、船舶の収容を図る。
- プレジャーボートの収容場所では、船や海洋レクリエーションについて学べる学習会の開催などが考えられる。
- 広場、築山などの工夫や、釣りを楽しんだり、運動を楽しむ場所としても活用する。
- ルートや拠点を巡る散策等が可能のように、プロムナードの全体や現在位置がわかるように案内看板やサインを整備する。



水辺での釣りイメージ

実現に向けて

- 国で整備する河川堤防や復興基本計画に基づく祈念公園、及び離島航路等と調整を図り、プロムナード計画に基づく施設の配置や利活用の工夫について具体を検討していく。
- 利用者・管理者等の中で施設や空間の利用ルールや管理区分等を調整していく。